第３回日本病院救急救命士研究会

プログラム・抄録集

主宰　一般社団法人 民間救命士統括体制認定機構
日本病院救急救命士ネットワーク

研究会 概要

研究テーマ　「病院救急救命士の業務確立を目指す！」

会長　　蒲池 淳一（川崎幸病院　救急救命士）

会期　　２０２３年１１月３日（金・祝）

会場　　川崎幸病院 コーラルビル７階会議場

主催　　日本病院救急救命士ネットワーク

後援　　一般社団法人 民間救命士統括体制認定機構

協賛　　JEMS リンクル株式会社、セコム医療システム株式会社、株式会社晴れ書房
株式会社オーストリッチインターナショナル

第３回日本病院救急救命士研究会 開催にあたって

第３回日本病院救急救命士研究会
会長　蒲池 淳一　（川崎幸病院）

このたび第３回日本病院救急救命士研究会を川崎幸病院で開催させて頂くこととなりました。何卒宜しくお願い致します。

本研究会は「病院救急救命士の業務確立を目指す！」をテーマに、活発な意見交換が出来るよう現地とオンラインでのハイブリッド開催としました。そして皆様のお力添えにより多くの演題登録や参加登録を頂き、非常に有意義な研究会になるであろうと思っています。

本研究のテーマである病院救急救命士の業務確立は以前からの課題でしたが、病院ごとに病院救急救命士に対するニーズが異なっているため長年確立出来ずにいました。

しかし、救急救命士法の一部改正や医師の働き方改革で救急救命士の雇用を検討し始めている病院が増加しているため、病院救急救命士自身が業務確立について討論し方向性を定めていく必要があると思います。

コロナの影響があり病院救急救命士同士の交流が少なく情報が入りづらい環境でしたが、本研究で実際に顔を合わせて沢山の情報交換・意見交換が出来ることを切望しています。

そして病院救急救命士業務の指針のようなものが作成出来れば、どの病院も病院救急救命士の活用方法を理解し安定した就業に繋がると思っています。

研究会終了後は川崎駅周辺で病院救急救命士同士の懇親会も企画しています。

是非とも、現地でお会いし本音で語り合いましょう！

プログラム

【開会挨拶】１３：００～１３：０５

【会長講演】１３：０５～１３：２５

座長：津波古 憲（一般社団法人民間救命士統括体制認定機構）

病院救急救命士の業務確立を目指す 蒲池 淳一（川崎幸病院）

【一般演題】１３：２５～１４：０５

座長：木村 清夏（相模原協同病院）

① 神奈川県における病院主導の転院搬送の普及率とその共通項について 柳原 駿平（海老名総合病院）

② 院内救命士による転院搬送の実績と現状 高見 祐哉（川崎幸病院）

座長：堀口 慎正（湘南東部総合病院）

③ 院内救急救命士の業務確立～院内救命士業務３本の柱～ 渡部 光洋（一般財団法人温知会 会津中央病院）

④ 医療機関に所属する救急救命士による緊急走行講習会の確立 渡部 圭介（高崎総合医療センター）

----------休憩　１４：０５～１４：１５----------

【シンポジウム】１４：１５～１６：１５

座長：渡部 圭介（高崎総合医療センター）

① 病院救命士の役割とこれからの展望について 石本 琢郎（医療法人厚生会 福井厚生病院）

② 病院救急救命士が認知されていない二次救急病院で救急救命士業務を確立する 常井 寛（同愛記念病院）

③ 救急救命士による ER でのコーディネート業務確立と今後の展望 横田 ちひろ（平成立石病院）

④ 医療職としての病院救急救命士業務の確立に向けての検討 髙橋 貴美（市立青梅総合医療センター）

座長：土井 大海（川崎幸病院）

⑤ 病院救命士の〝気づき〟が診断に直結した症例 加納 正也（独立行政法人 地域医療機能推進機構 中京病院)

⑥ 医師から病院救命士へタスクシフト～当院における転院搬送調整の取り組みについて～

内田 悠太（湘南鎌倉総合病院）

⑦ 救急救命処置実施に関する他職種との連携 北原 学（国立国際医療研究センター病院）

⑧ 地域医療における病院救急車の役割 金子 翔太郎（医療法人社団永生会 南多摩病院）

----------休憩　１６：１５～１６：２０----------

【特別講演】１６：２０～１６：４０

座長：長橋　和希（東京曳舟病院）

病院救命士の現状と日本病院救急救命士ネットワークの将来像

喜熨斗 智也（国士舘大学大学院救急システム研究科）

【閉会挨拶】１６：４０～１６：４５

抄録集

【会長講演】

病院救急救命士の業務確立を目指す

蒲池 淳一（川崎幸病院）

２０２１年１０月１日に救急救命士法施行規則の一部改正が施行され、救急救命士が病院に勤務する環境が整備されてきた。そして、２０２４年医師の働き方改革でタスクシフト/シェアが推進され救急救命士を雇用する病院が増えてきている。

しかし、様々な病院で救急救命士が雇用されているが、全国から業務に関する困惑した声が挙がっている。

その主な要因は病院内で業務が確立されていないことであり、早急に取り掛かる必要があると考えている。

病院救急救命士の業務を確立することは雇用する理由付けや安定した就業に直結し、診療報酬の結びつきにも影響を与える。そしてこれら以外にも、コロナ渦を抜けつつある今後の病院の経営状況とも密接な関係がある。

私からは現在の病院の経営状況を踏まえ、病院救急救命士の業務確立の必要性を伝えたい。

そして病院救急救命士が病院にとって必要不可欠な存在となるよう、知恵を出し合って業務確立について討論していきたい。

【一般演題】

① 神奈川県における病院主導の転院搬送の普及率とその共通項について

柳原 駿平、金井 隆太、池田 明子（海老名総合病院）

COVID-19 という災害を経験し、行政救急車のかつてないひっ迫を目の当たりにすることとなった。救急車の適正利用が叫ばれる中で、転院搬送を行政救急に依頼することがまかり通っている。そのような現状もあり、当院では行政救急車の利用適正化を目的の一つとして掲げ、病院救急車を利用した転院搬送を行っている。昨今、学会などで発表される論文やメディアに露出する院内救命士の活動を見ると転院搬送は急速に発展している様に感じる。しかし神奈川県という地域を切り取って考えると、その急速な発展を肌で感じる機会は少ないのが現状だ。そこで私たちは、神奈川県内の医療機関へ転院搬送を取り巻く実状について質問紙調査を行い、転院搬送実施割合と実施病院における共通項を明らかにすることとした。集計の結果５４病院（有効回答率 32.1%）からの回答を得ることができ、うち１２病院（22%）において転院搬送が行われていることがわかった。また、院内救命士雇用群かつより高次である３次救急指定病院で有意に転院搬送実施率が高いことが分かった。これは院内救命士が、転院搬送を行う上で、必要な職種であることを反映していると考えられる。3 次医療機関よりリハビリや療養を目的とするいわゆる下り搬送が２次救急医療機関より発生することにより、転院搬送のニーズが高いと考えられる。救命士法が改正され医療機関での雇用が広がっていく過程の中で、転院搬送の「地産地消」について再考すべきなのではないかと考える。

② 院内救命士による転院搬送の実績と現状

高見 祐哉（川崎幸病院）

当院では 2008 年から救急救命士を院内で雇用開始し 2023 年現在で 24 人が医療技術部 EMT 科として ER に従事している。現在の主な業務として、Dr.car、転院搬送、転院検索、HOTLINE、初療の診療補助/救急救命処置、紹介患者の受け入れ手配、病床管理などを行なっている。
当院は病床数が 326 床の二次救急指定病院であり、標榜科として一般内科、整形外科がない病院である。
そんな中、救急車は 2022 年 11,427 件の応需をしており、転院数は 1705 件とおおよそ 1 割を占めている。
そこで EMT 科が ER 初療から介入し当院での入院ができなかった患者をそのまま緊急で転院検索、転院搬送を行う。院内救命士が転院検索を一任されることのメリットは、医師業務のタスクシフトに貢献できることや転院検索を開始するまでの初速の速さである。
今回は院内救命士が行う転院業務の必要性について成果を報告する。

③ 院内救急救命士の業務確立　～院内救命士業務３本の柱～

渡部 光洋（一般財団法人温知会　会津中央病院）

背景と目的

当院は福島県会津地方の中核都市である会津若松市にある救命救急センターであり、会津地方の３次救急事案を一手に引き受けている病院です。

しかし、夜勤を担当できる事務職員の減少によりドクターカーの運行が難しくなった事。また、看護師不足から救命救急センターの外来看護師に多大な負担がかかっている状況でした。

このことから院内救急救命士を採用し、①ドクターカーの運用要員　②救命救急センターにおいての診療補助　③受付窓口での医療事務　の３つの業務を担当させ、業務間でのタスクシェアを図る事となりました。２０２３年４月には２名、８月に１名の救急救命士を採用し、計３名で業務を行っています。

実際の業務

ドクターカーの運用にあっては助手席で無線での情報収集や安全管理、ストレッチャーの操作を担当、救命センター外来においては救急救命士処置の他に、検体搬送や医師・看護師のサポートとして、受付窓口の業務は保険証の確認や夜間の外線着信対応、患者案内等を実施しています。

考察

ドクターカーの運用と窓口業務は比較的スムーズに業務を開始できましたが、救急外来での立ち位置が不明瞭で、当初は看護師サイドから「何をやらせたらいいのか分からない」という声も聞かれたが、信頼を重ねるたびに任せられる業務も増えている状況です。

結論

多岐にわたる業務を担当させた、また、完全に新規職種だったため「見本となる先輩」の様な存在がなく苦慮しておりました。今後は院内救命士自身のキャリア形成、教育体制の確立が必要だと感じました。

---

④ 医療機関に所属する救急救命士による緊急走行講習会の確立

渡部 圭介（高崎総合医療センター）、風間 幸道（藤沢市消防局）、長橋 和希（東京曳舟病院）、沼田 浩人（日本医科大学多摩永山病院）、喜熨斗 智也（国士舘大学大学院救急システム研究科）、小澤 恵太（湘南鎌倉総合病院）、加藤 渚（東京医科歯科大学病院）、守田 崇俊（八戸市立市民病院）

【背景】救急救命士法が改正され、救急救命士による救急救命処置の実施の場が医療機関内（入院するまでの間）に拡大された。医療機関に所属する救急救命士の業務の 1 つにドクターカーや病院救急車の運転が含まれ、緊急走行を実施する医療機関も多く存在する。本邦の緊急自動車の交通事故は 10 年間(2009-2018)で 12 万 1,829 回の出動に 1 件とされ、そのうち約 3 割が緊急走行中であると報告されている。緊急走行に関する教育は体系化されておらず各施設に依存している。また、医療機関での救急救命士の雇用が増加している中、新規学校卒業予定者の雇用をする施設も多く存在する。よって、緊急走行に関す教育体制の整備は急務である。

【目的】日本病院救命士ネットワークでは「緊急走行訓練講習委員会」を立ちあげ、安全な緊急走行が実施できるよう危険予知と安全確認ができることを目的とした講習の構築を目指した。

【講習内容】講習会は実技と座学で構成される。実技では実際の緊急車両を使用して普通走行の確認、緊急走行の模擬体験を実施する。座学では道路交通法の特例、危険予知、マイクでの周知などを実際の緊急走行の動画を踏まえて実施する。

本発表では講習会のパイロットコースの実施を踏まえ、緊急走行講習会の効果と必要性、今後の展望を考察する。

【シンポジウム】

① 病院救命士の役割とこれからの展望について

石本 琢郎、橋本 忠雄（医療法人厚生会 福井厚生病院）

医療法人厚生会　福井厚生病院では，2021 年 4 月に病院救急救命士を 2 名採用した。当院としても初めてであり，福井県内でも初の試みであった。
当院は 199 床の中規模総合病院で，一般病棟 74 床，地域包括ケア病棟 50 床，精神科病棟 41 床，回復期リハビリ病棟 34 床より構成される。一方救命救急センターは有せず。救急部（救急総合診療科常勤医師 4 名），病院救急車 1 台を有し二次救急医療施設，後方支援病院としての機能を持つ。
また併設の在宅医療部では地域包括支援センター，居宅介護支援，認知症対応型共同生活介護，看護小規模多機能居宅介護，サービス付き高齢者向け住宅，訪問看護・介護事業を展開している。当院と共に地域包括ケアシステムの中心を担う重要な存在である。
2022 年 5 月 9 日に新病院が完成し，診療を開始している。現下の超高齢社会において，地域医療の中核として期待が高まっている。
今回は当院救急救命士が入職後に取り組んできた具体的な業務内容について紹介し，その意義・効果について考察する。また、救急救命士の採用を検討している当院と同規模の病院等において，採用後のイメージの具体化や実現可能な業務の発案などに寄与し，2024 年開始予定の「医師の働き方改革」の一翼を担うタスクシェア／シフトの強い促進剤になればと考えている。

② 病院救急救命士が認知されていない二次救急病院で救急救命士業務を確立する

常井 寛、櫻井 夏樹、中村 聡馬、堀 靖崇（同愛記念病院）

当院は墨田区にある区東部医療圏の二次救急病院である。当院にて救急救命士が採用されてから 4 年が経過した。採用当初、病院内での業務が確立されていなかった。我々はこの状況を打破すべく、院内で不足していた医師事務作業補助者の資格を取得し、医師事務作業補助者として救急外来で医師・看護師の補助業務を開始した。そして病院救急救命士として業務を確立するために、救急外来業務・災害対策業務・病院救急車運用、この三つの業務に介入し病院全体の病院救急救命士に対する認識の改革を行った。救急外来業務では患者の全身管理・情報管理・備品管理を救急救命士が担うことで、医師、看護師の業務のタスクシフトに努めた。災害対策業務では災害対策委員会に所属し、院内の災害に関する教育と訓練を救急救命士が担うことで、院内の災害に対する意識の改善に努めた。病院救急車運用では病院救急車の管理を救急救命士が担うことで墨田区医師会や行政の要請に迅速に対応することが可能となった。このように 3 つの業務に介入し我々の業務として確立した結果、病院職員にも認知され、継続的に救急救命士が採用され、重要な業務を担えるようになった。我々が行った取り組みが今後救急救命士を採用する医療機関のモデルケースになれば幸いである。

③ 救急救命士による ER でのコーディネート業務確立と今後の展望

横田 ちひろ、家田 淳史（平成立石病院）、角田 惇（令和あらかわ病院）

救急救命士法の一部改正が行われたことにより、病院で勤務する救急救命士（以下救命士）が増えている。平成立石病院では 2015 年ごろより雇用が始まり、2017 年にはコメディカル部門の部署として独立し、現在 20 名の救命士が在籍している。

業務内容は、ER でのホットライン対応、転送調整を始めとする ER のコーディネートと病院救急車の運用、地域救急隊との症例検討会など多岐にわたる。特に、ER での業務で大きな役割を担っているのが、医師事務作業補助者としてカルテ、各種検査オーダーの代行入力、救急隊申し送り受け、コストの確認と医師、看護師、医事課と救急部門につながる職種の負担軽減に寄与していると考える。医師事務作業補助者を取得することで、病院で勤務するために必要な幅広い医療知識や診療報酬など病院経営に関わる部分も学びいかせることで病院救命士としてのキャリアアップにも繋がると考える。現在、多くの医療機関で救命士の雇用は進んでいるが、医療機関によって業務内容などにばらつきがあるのが現状ではないだろうか。今後、救命士が当たり前のように医療機関で勤務し必要とされるためには、救命士自身も病院組織、役割を理解し、救急外来だけでなく病院、地域への貢献を考えていく必要があると考える。そこで、当院での取り組みを通じて少しでも、医療機関の所属する救命士、将来の病院救命士の医療機関での業務確立、キャリアアップに繋がればと幸いである

---

④ 医療職としての病院救急救命士業務の確立に向けての検討

髙橋 貴美、遠藤 一平、比嘉 武宏、宮国 泰彦（市立青梅総合医療センター）

近年、救急救命士が医療機関で採用されるようになったが、雇用形態、院内での位置づけ等は様々である。当院では 2015 年 4 月より常勤・地方公務員として救急救命士の採用が開始された。救急救命士は病院前救護を担う職種として制度設計され、養成されてきた職種であるため院内で働くにあたり、どのような業務を担っていくかが入職当初の課題であった。この課題に対し、院内メディカルコントロール体制を構築し院内研修システムを運用することによって、院内で必要とされる知識や技術の担保を行った。この院内研修システムにより救急救命士の業務は拡大されたが、院内で業務を行うには制約が多く、業務の確立に向けて病院救急救命士に特化した認定制度の新設が望まれる。

一方、入職当初は院内で救急救命士が医療行為を行うことは認められていなかったため、入職時に設定された診療報酬を獲得するための看護補助業務が医療職としての救急救命士の業務を妨げる場面が散見されてきた。医療機関において救急救命士が医療職として必要とされる職種であるためには、救急救命士が行った処置や転院搬送業務で診療報酬を獲得できる仕組みが必要と考える。

当院における救急救命士業務の変遷を述べると共に、今後、病院救急救命士の専門性を活かした業務の確立に向けて必要と考えられる病院救急救命士に特化した認定制度や診療報酬について考察したい。

⑤ 病院救命士の〝気づき〟が診断に直結した症例

加納 正也、川野 悠也、江森 達輝、松清 輝也、大須賀 章倫、真弓 俊彦（独立行政法人　地域医療機能推進機構　中京病院）

当院の救急外来では医師、看護師、病院救命士で救急患者の対応を行なっている。しかし、実際は救急外来受診患者の重複、重症患者の対応のために人員を多く配置する等の理由で必ずしも全職種で患者対応をできるとは限らない。今回、医師と病院救命士だけで初期対応を行ない、救命士の身体所見の把握が迅速な診断に寄与した症例を報告する。【症例】８５歳女性、独歩で来院。１週間前より咳嗽、呼吸苦症状あり。院内トリアージで SpO2 が８２％で赤と判定。トリアージを実施した看護師から救急外来の医師と病院救命士３名（以下、病院救命士 A、B、C）に引き継ぎ診察開始。医師から末梢静脈路確保と１２誘導心電図（ECG）の指示あり。病院救命士 A が末梢静脈路確保、病院救命士 B と C で ECG を測定。ECG 測定時に右胸部に打撲痕を認めたため測定後に病院救命士 A が胸部触診、病院救命士 B が呼吸音を聴診したところ握雪感があり、右胸部で呼吸音が消失していた。直ちに医師に報告し画像検査をしたところ右肺の血胸と無気肺を認めた。その後、胸腔ドレナージを実施し入院となった。【まとめ】今回の症例では病院救命士がバイタル異常から初期対応し、病態を予測し身体所見の異常を医師に報告し、迅速な診断に繋げた症例であった。今後も病院救命士だけで患者対応をする場面があると想定され、その際経験等問わず対応できる教育体制の構築が必要と考えられる。

---

⑥ 医師から病院救命士へタスクシフト～当院における転院搬送調整の取り組みについて～

内田 悠太、加藤 大和、作田 翔平（湘南鎌倉総合病院）

当院は、鎌倉市に位置する救命救急センターで、2022 年度は救急搬送件数 22,342 件、独歩受診 44,862 件受け入れている。増加する救急搬送数に対応すべく、2015 年に病院所属の救急救命士で構成された「救急調整室」を設立し、救急における医師・看護師業務のタスクシフトを担っている。
2019 年より副診療部として独立部署化し、現在は 16 名の病院救命士が所属している。
主な業務内容としては救急隊からのホットライン対応、他院や他施設からの紹介対応、ER からの転院の調整、病院救急車を用いた搬送、一般患者からの問い合わせ対応、医師事務作業補助業務、初療介助業務、病院救急車の管理と運用などがある。
主なタスクシフトの一つである ER からの転院調整業務に着目し、業務負担の軽減された時間を計測した。
2022 年度の転院調整件数は 2,916 件あり、1 件あたりの平均時間は 27 分 42 秒であった。救急調整室が転院調整をタスクシフトすることで、約 1,330 時間の医師の業務負担の軽減がされることがわかった。
今後の課題として、転送調整交渉を病院救命士が実施しているという認知度の向上、この業務に対する「教育」に力を入れていきたいと考えている。

⑦ 救急救命処置実施に関する他職種との連携

北原 学（国立国際医療研究センター病院）

国立国際医療研究センター（以下 NCGM）病院では、令和３年の救急救命士法の改正に伴い、医療機関内における救急救命士による救急救命処置実施に関する院内の体制構築を早期から取り組み、救急救命処置を行っている。NCGM 病院の救急外来には、救急科医師、研修医、看護師、臨床検査技師、診療放射線技師、救急救命士が常駐し、多職種間で協働し診療を行っている。

救急救命処置の実施範囲は３３行為としている。指示体制は救急科医師が救急外来に常駐しているため直接指示を受けることができ、その場でフィードバックをしてもらうことが可能である。気管挿管などの高侵襲な処置は医師が実施し、救急救命士は高侵襲な救急救命処置は積極的に行うのではなく、救急外来の安全管理やマネージメントに重点を置いている。

主に 5 つの職種が救急外来で業務にあたっているが、それぞれの職種間でうまく住み分けができている。救急外来のスタッフは、その職種、個人がどこまでのことができるのかということを把握しており、円滑に業務を行う事が出来ている。救急救命士についても院内で周知されている。これは、掲示物だけでなく、救急外来の業務以外にも、院内の委員会や会議、研修など多くの場面で救急救命士が参画していることによって、日常的に他職種とコミュニケーションができているからであると考える。今回、他職種とのチームビルディングの観点から NCGM 病院の救急救命処置実施について紹介する。

---

⑧ 地域医療における病院救急車の役割

金子 翔太郎（医療法人社団永生会　南多摩病院）

【背景】未曾有の超高齢化社会の到来により、高齢者救急搬送件数急増や救急搬送時間延長などの問題に対し、東京都八王子市では高齢救急患者受入体制の整備を中心に、地域包括ケアシステム確立の一助として、病院救急車の活用が推進された。

【取り組み】出動要件は緊急性に乏しく入院を必要とする患者を対象とし、在宅療養等の高齢救急患者を医療機関へ搬送する「八王子市在宅療養患者救急搬送システム事業」を主軸に、精神疾患等の特性から滞在時間延長を見込む搬送を担う「精神障害者早期訪問支援事業」。自院の介入を問わず地域内全ての医療機関転院搬送を担う「地域共同型転院搬送事業」。福祉施設等から円滑な救急医療提供と消防救急の救急需要削減を目的とする「八王子市高齢者救急医療体制推進事業」など要請は多岐に渡る。災害時は派遣先での患者搬送や自地域被災時において消防救急の代替活用が地域防災計画にて検討されている。

【効果】病院救急車を通じて地域医療機関との「顔の見える関係性」が構築されたことで、慢性期医療機関の受け入れ件数が増加、消防救急において市内救急事案に対し市内収容率は増加した。

【結語】地域事業として公的に運用する病院救急車の取り組みは、消防救急の負担軽減を図ると共に、高齢救急患者を地域で支える医療介護連携の上で重要な役割を担っている。今後、地域特性に合わせた課題抽出を継続することで、全国に病院救急車の有効な活用が推進できると考える。

【特別講演】

病院救命士の現状と日本病院救急救命士ネットワークの将来像

喜熨斗 智也（国士舘大学大学院救急システム研究科）、蒲池 淳一（川崎幸病院 EMT 科）、北原 学（国立国際医療研究センター病院救命救急センター・救急科）、加藤 渚（東京医科歯科大学病院救命救急センター）、長橋 和希（東京曳舟病院救急救命士課）、沼田 浩人（日本医科大学多摩永山病院救命救急センター）、津波古 憲（一般社団法人民間救命士統括体制認定機構）

2021 年 10 月の救急救命士法改正以降、医療機関に勤務する救急救命士（以下、病院救命士）に関する多くの課題が浮き彫りになってきた。本研究では、日本病院救急救命士ネットワーク（以下、本ネットワーク）の現状と、病院救命士の現状について調査した結果と今後の展望について報告する。

本ネットワークは、病院救命士の資質向上を目的として 2021 年 9 月に設立され、研究会やセミナーを通じて意見交換・情報共有を行ってきた。2023 年 10 月 3 日時点で会員は 1,161 人、そのうち病院救命士は 558 人が登録している。

令和 4 年度日本救急医療財団研究助成にて実施した「全国の救急医療機関を対象とした病院救命士の業務・雇用状況」に関する調査では、2,987 施設を対象に 516 施設から回答を得た（回答率 17.3%）。その結果、回答施設の 17.3%が救急救命士を雇用し、1 施設あたりの雇用人数は平均 4.3 人だった。特定行為の実施割合は、三次救急医療機関で約 50%だった。①都道府県 MC 協議会で特定行為の認定を受けなければならないこと、②入院後の患者に救急救命処置ができないこと、③乳酸リンゲル液以外の輸液剤が使用できないことなどが挙げられた。また、都道府県 MC 協議会のうち、病院救命士に対する特定行為の認定・管理を行っているのは 5 機関のみだった。

本発表では、これらの調査結果を基に、病院救命士の現状を報告し、筆頭演者が考える本ネットワークが目指すべき将来像について言及する。

救急救命士の採用にお困りの医療機関様へ

救急救命士の採用

救ジョブ

新卒既卒問わず届く
効果的な採用方法がココに!!
エントリーが増えるチャンス

救急救命士に特化した 求人情報を掲載

2023年度 無料で求人情報を掲載いただけます!!

※一部サービスは有料です。

- フォームに入力するだけの簡単操作!!
- 救急救命士が重要視する情報が掲載できる、救ジョブオリジナルの求人情報入力フォーム!!
- 1組織ごとの充実した救急救命士求人情報ページを作成できるのは、救ジョブだけ!!
- 救ジョブだからこそ実現する情報発信方法で、求人を探す救急救命士にダイレクトアピール!!

オンラインで開催する 合同就職説明会

2023年度 無料で説明会に出展いただけます!!

※一部サービスは有料です。

- オンライン開催だから、時間と経費を節約して就職説明会に参加できる!!
- 救急救命士の求職者が全国から集まる就職説明会は、救ジョブだけ!!
- 求人掲載と組合せることで効果抜群!! ページ閲覧数が2倍以上違う!! ※当社調べ
- どなたでも安心して発表できるよう、テンプレートスライドをご用意!!

2023年9月に公開!!
救ジョブ求人サイト

おすすめ!! まずは仮登録!!
求人情報掲載

おすすめ!! まずは仮登録!!
オンライン合同就職説明会

サービス説明ウェビナー / 個別相談会 開催中

- カメラオフでお気軽に参加いただけるウェビナー形式
- 詳しく聞きたい・質問をしたい方におすすめの個別開催形式

お好きな参加形態をお選びください。所要時間は約60分です。
お申込みは、右のQRコードをご利用ください。
皆さまのご参加を、お待ちいたしております。

200名以上が登録 救ジョブ公式LINE

特別な方法で確実に届ける

救ジョブの公式LINEは
全国の求職者＝救急救命士が登録しています。
貴院が求めるターゲットに確実に届きます。
さらには、1組織ごとに丁寧に紹介をさせていただくので他医療機関の求人に紛れ込む心配もありません。
ぜひ、この機会に試してみませんか？

これができるのは
救ジョブだけ!!

JEMSリンクル株式会社 代表取締役 長谷川汐里(救急救命士)あいさつ

この度は、本ページをご覧いただき、誠にありがとうございます。
代表取締役 救急救命士 長谷川汐里です。当社は"救急救命士の働くを応援"をスローガンに救急救命士の求人・求職・転職を支援するオンラインサービスを提供する会社です。「リンクル」という会社名は、「つなぐ」「輪」という意味を持つ英単語から名付けました。救急救命士と社会を「つなぐ」、そのための「輪」を構築したい。そういった気持ちを込めています。
都会や地方など全国に広がる就業場所、公務員から一般企業までの幅広い業種など今や救急救命士が働く環境は様々です。その広い幅こそが、救急救命士業界における魅力です。現状存在する数ある働き方も守りながら、より救急救命士としての社会的価値を高め救急救命士としての働き方の幅を増やしていきたいと考えています。「救ジョブ」はそのための大きな第一歩です。
リリースして間もないサービスですが、皆さまとともに、創り上げていきたいと存じます。
私は、JEMSリンクル株式会社で、救急救命士の未来に繋がるサービス作りを目指していきます。

サービス名:救ジョブ / 救ジョブ運営会社:JEMSリンクル株式会社 / E-mail: info@j-limkle.co.jp

救急救命士国家試験 合格への近道！ ＋ 合格ラインの突破！

2024年版 救急救命士国家試験対策 出題分野別 国試問題・解説集

― A・B 問題編 ―

編著：小関 一英
(前) 帝京平成大学健康メディカル学部医療科学科教授/(元) 川口市立医療センター救命救急センター長/救急科専門医・指導医，医学博士

著：菊川 忠臣
帝京大学医療技術学部スポーツ医療学科講師
救急救命士，健康科学博士

B5版／636頁
定価：5,060円 (本体4,600円＋税10%)
ISBN 978-4-908980-19-0

― C・D 問題編 ―

編著：小関 一英
(前) 帝京平成大学健康メディカル学部医療科学科教授/(元) 川口市立医療センター救命救急センター長/救急科専門医・指導医，医学博士

著：菊川 忠臣
帝京大学医療技術学部スポーツ医療学科講師
救急救命士，健康科学博士

B5版／372頁
定価：3,850円 (本体3,500円＋税10%)
ISBN 978-4-908980-20-6

★第42回～46回 国家試験問題 A・B 問題 (全750問)，C・D 問題 (全250問) について正答への考え方を徹底解説

☆国家試験問題を『**改訂第10版 救急救命士標準テキスト**』に準拠して分類・解説したわかりやすい構成

☆各解説では，標準テキストの内容を包括的に理解できるようにテキストの記述に沿って要約し，必要に応じて図表にまとめるなど，受験時のみならず，その後も大いに活用いただける学習しやすい内容構成

☆出題傾向がよくわかり，この２冊で A・B 問題，C・D 問題は完全マスター

高度化する知識・技術のスキルアップのための実用書！ 実習本の決定版！

新訂 第2版 救急処置スキルブック

■ 上 巻 ■

★総 監 修：田中秀治
☆医学監修：櫻井 勝
☆責任編集：芦沢 猛
高橋宏幸
竹内栄一
張替喜世一

B5判／約348頁
定価：4,950円 (本体4,500円＋税10%)
ISBN 978-4-908980-15-2

■ 下 巻 ■

★総 監 修：田中秀治
☆医学監修：櫻井 勝
☆責任編集：秋濱裕之
喜熨斗智也
高橋宏幸
竹内栄一

B5判／約458頁
定価：6,050円 (本体5,500円＋税10%)
ISBN 978-4-908980-16-9

★「JRC蘇生ガイドライン2020」「JPTECガイドライン」に準拠した最新の内容！

★「観察スキル」から「特定行為スキル」まで写真やイラストを駆使し，複雑化する手技にわかりやすく対応！

★お申し込み・お問い合わせは
株式会社 晴れ書房
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋1-7-10 山京ビル本館10F
TEL：03-6256-8895 FAX：03-3222-1577
http://www.hareshobo.co.jp/
●送料別，３冊以上は無料（最寄りの書店でもお求めいただけます）

SECOM提携病院　救急救命士採用募集

【2023年9月末現在】

＜現在募集中の提携病院一覧＞

東京

医療法人財団 荻窪病院
（２次救急医療機関）

病床数：252床
在勤救命士数：1名
救急外来件数：約8,000件/年

北海道

渓仁会 手稲渓仁会病院
（救命救急センター）

病床数：670床
在勤救命士数：5名
救急外来件数：約10,000件/年

千葉

誠馨会 新東京病院
（2次救急医療機関）

病床数：430床
在勤救命士数：4名
救急外来件数：約11,000件/年

誠馨会 千葉ﾒﾃﾞｨｶﾙｾﾝﾀｰ
（2次救急医療機関）

病床数：346床
在勤救命士数：1名
救急外来件数：約8,000件/年

○安全・安心	*Security Safety*
○卓越したサービス	*Excellent Service*
○お客様第一主義	*Customer First*
○開かれた組織	*Opened Organization*
○安定した経営基盤（目標管理の徹底）	*Management by objectives*

＜各提携病院の採用情報に関する問い合わせ先＞

医療法人財団　荻窪病院

◆採用窓口（総務課　採用担当）
メールアドレス：saiyou@ogikubo-hospital.or.jp
電話番号：03-3399-1101

渓仁会　手稲渓仁会病院

◆採用窓口（総務課　採用担当）
電話番号：011-685-2997

誠馨会 新東京病院

◆採用窓口（人事課）
メールアドレス：recruit@shin-tokyohospital.or.jp
電話番号：047-711-8700

誠馨会 千葉メディカルセンター

◆採用窓口（看護部　採用担当）
メールアドレス：nurse@seikeikai-cmc.jp
電話番号：043-261-5179

セコム医療システム㈱企画本部　TEL:03-5775-8150

OSTRICH™ 株式会社オーストリッチインターナショナル

会社概要

オーストリッチインターナショナルは、前身の時代も含め、
およそ70有余年に渡り皆様にご愛顧を頂いて参りました。
メーカーとして商品をご提供させて頂ききながら、海外製品を扱う機会に恵まれ、
世界の文具・良品を輸入販売することとなりました。

2001年にはオーストリッチインターナショナルへとブランドチェンジを図り、
軍用品やエマージェンシー用品、災害対策用品など特殊用途製品の取り扱いを行うようになり、
今日では各省庁、自治体、自衛隊、警察・消防をはじめ、
多くの公共機関や民間企業様とお取引を頂くまでになりました。

業界のリーディングカンパニーとして、
またアメリカ、欧州等各分野のトッププレイヤーと日本を結ぶ懸け橋として、
オーストリッチインターナショナルはこれからも皆様のお役に立てますよう努力を続けて参ります。

代表的な取扱商品

各種衛生資機材

EMSバッグ、止血コントロールキット

その他商品は弊社Webサイトをご覧ください

Webサイト
http://www.ostrich.co.jp/

ご不明な点は下記フォームからお気軽にお問い合わせください

お問い合わせフォーム
http://www.ostrich.co.jp/contactus/

クーポン配布中

11/3～30まで
弊社オンラインショップで
10%OFFクーポンを配布中！

ご購入の際に
クーポンコード：JHPN10
をご入力ください

オンラインショップ
https://orsp.shop-pro.jp/

主宰　一般社団法人 民間救命士統括体制認定機構

日本病院救急救命士ネットワーク